学校法人 安田学園　安田女子大学　安田女子短期大学　安田女子高等学校　安田女子中学校　安田小学校　安田幼稚園　安田幼稚園安東園舎

2022年度
事業報告書

（2022年4月1日～2023年3月31日）

目　　次

Ⅰ．法人の概要

１．建学の精神 …… １
２．設置する学校及び所在地
　（１）安東キャンパス …… ２
　（２）白島キャンパス …… ２
３．沿　革 …… ３
４．組織図
　（１）学校機構図 …… ５
　（２）事務組織図 …… ６
５．設置する学校の入学定員、編入学定員、収容定員、在学生数 …… ７
６．役員等の概要 …… ８
　（１）役員 …… ８
　（２）責任免除･責任限定契約･補償契約･役員賠償責任保険契約の状況　８
　（３）評議員 …… ９
　（４）教職員 …… １０

Ⅱ．事業の概要

１．当該年度の主な事業
　（１）安田女子大学・安田女子短期大学 …… １１
　（２）安田女子高等学校・安田女子中学校 …… １７
　（３）安田小学校 …… ２１
　（４）安田幼稚園 …… ２４
　（５）安田幼稚園安東園舎 …… ２７

Ⅲ．財務の概要

１．資金収支計算書の推移 …… ３１
２．事業活動収支計算書の推移 …… ３２
３．貸借対照表の推移 …… ３３
４．貸借対照表関係比率の推移 …… ３４
５．事業活動収支計算書関係比率の推移 …… ３４
６．在学生数・教職員数の推移 …… ３４
７．５年間の財務　経年比較表 …… ３５

Ⅰ．法人の概要

１．建学の精神

学校法人安田学園は、今から１０８年前の大正４年１月２１日、初代学園長安田リヨウにより創立された広島技芸女学校に始まります。

安田リヨウは、「女子に教育は無用」とする風潮が強かった時代に、自らの経験を通じて、女子教育の重要性と必要性を痛感したことから、「品格と教養を兼ね備えた女性の育成を目標とした学校を造りたい」という願いを強く持ち「柔(やさ)しく剛(つよ)く」を建学の精神とする学校を開校しました。

その後学園は、戦時下での女子教育の継続、また、原爆により生徒や教職員に多数の犠牲者を出す等、多くの苦難を乗り越え、学園の復興と教育研究体制の充実をはかり、幼稚園から大学院までを設置する総合学園に発展しました。

現在では「幼児教育から最高水準の教育を一貫して行える子女教育の総合学園」として地域社会から高い評価を得るまでになっています。

建学の精神「柔しく（やさしく）剛く（つよく）」は、「人間としての柔しさや徳性を身につけた人格を形成し、人間として剛い意志をもって社会に貢献することのできる、心身ともに健全な教養ある人間を育成する」ことをめざした安田リヨウの信念です。学園はこれを基本的教育方針として、長年にわたり堅実な子女の育成に努め、多数の人材を社会に送り出してきました。

学園が創設された大正から昭和、平成、令和へと時代は移り変わり、社会が大きく変化していく中で、学園は発展を遂げてきました。そして、世の中の変動に流されることなく守り続けてきた創立以来の理念・教育方針を、これからもしっかりと受け継いでまいります。

２．設置する学校及び所在地

（１）安東キャンパス

広島市安佐南区安東6丁目13番1号

学 校 名	学部・学科・専攻・課程	開設年度	備　考
安田女子大学	大学院　文学研究科	1994年度（平成6年度）	
	博士前期課程		
	日本語学日本文学専攻		
	英語学英米文学専攻		
	教育学専攻		
	教育学・心理学コース		
	臨床心理学コース		
	博士後期課程	1996年度（平成8年度）	
	日本語学日本文学専攻		
	英語学英米文学専攻		
	教育学専攻		
	家政学研究科	2013年度（平成25年度）	
	修士課程		
	健康生活学専攻		
	薬学研究科	2013年度（平成25年度）	
	博士課程		
	薬学専攻		
	看護学研究科	2018年度（平成30年度）	
	博士前期課程		
	看護学専攻		
	博士後期課程		
	看護学専攻		
	文学部　日本文学科	1966年度（昭和41年度）	
	書道学科	2011年度（平成23年度）	
	英語英米文学科	1966年度（昭和41年度）	
	教育学部　児童教育学科	2012年度（平成24年度）	
	心理学部　現代心理学科	2018年度（平成30年度）	
	ビジネス心理学科	2018年度（平成30年度）	
	現代ビジネス学部　現代ビジネス学科	2003年度（平成15年度）	
	国際観光ビジネス学科	2015年度（平成27年度）	
	公共経営学科	2020年度（令和 2年度）	
	家政学部　生活デザイン学科	2004年度（平成16年度）	
	管理栄養学科	2004年度（平成16年度）	
	造形デザイン学科	2016年度（平成28年度）	
	薬学部　薬学科	2007年度（平成19年度）	
	看護学部　看護学科	2014年度（平成26年度）	
安田女子短期大学	保育科	1955年度（昭和30年度）	
安田幼稚園安東園舎		1981年度（昭和56年度）	

（２）白島キャンパス

広島市中区白島北町1番41号（小学校・中学校・高等学校）

広島市中区白島中町2番25号（幼稚園）

学 校 名	学部・学科・専攻・課程	開設年度	備　考
安田女子高等学校	全日制課程　普通科	1948年度（昭和23年度）	
安田女子中学校		1947年度（昭和22年度）	
安田小学校		1956年度（昭和31年度）	
安田幼稚園		1953年度（昭和28年度）	

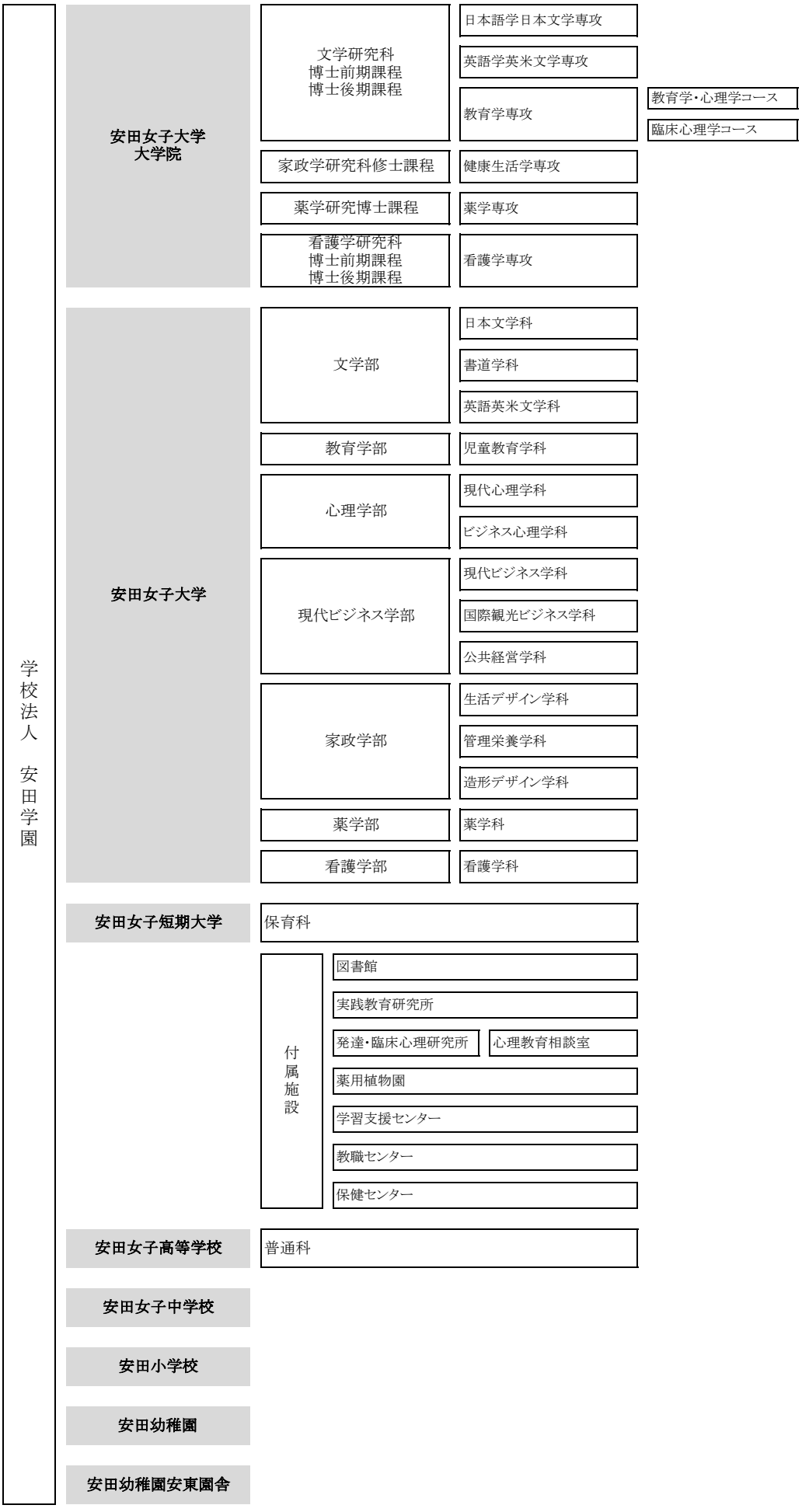
３．沿　革

1915年	大正	4年	1月	広島技芸女学校開校の開設認可を広島県知事より受ける
			4月	各種学校令による広島技芸女学校開校（広島市中島本町）
1917年		6年	10月	校地を広島市基町（現西白島町）に移す
1918年		7年	4月	広島技芸女学校を安田技芸女学校と改称
				実業学校令による広島技芸女学校開校
1920年		9年	4月	安田技芸女学校は旧名の広島技芸女学校に復称
				広島技芸女学校を高等女学校令による広島実科高等女学校に昇格
1922年		11年	4月	広島実科高等女学校を改組して安田高等女学校を開校
1927年	昭和	2年	8月	広島技芸女学校を広島高等家政女学校と改称（昭和20年3月まで存続）
1928年		3年	8月	安田高等女学校を財団法人安田高等女学校に改組
1930年		5年	5月	広島女子教員養成所開所
1944年		19年	3月	広島女子教員養成所廃止
			5月	安田高等女学校内に保育所併設（昭和20年3月まで）
1945年		20年	8月	原子爆弾のため職員13名、生徒315名死亡　校舎全壊　終戦
			12月	校地に旧工兵隊跡地使用の内諾を得、翌年1月本格的復興工事開始
1946年		21年	4月	安田高等女学校5年制となる
1947年		22年	4月	学制改革により安田女子中学校を開校
				広島Y・D・Mカレッヂ開校
1948年		23年	5月	学制改革により安田高等女学校を廃止し、安田女子高等学校を開校
1951年		26年	3月	学校法人安田学園へ組織を変更
			4月	広島県の委嘱をうけ広島県保育専門学校を開校（昭和28年3月まで）
1953年		28年	4月	安田学園幼稚園教員養成所を設置
			6月	昭和27年5月開園した安田保育園を廃止し、安田幼稚園を開園
1955年		30年	4月	安田女子短期大学保育科開学
1956年		31年	3月	安田学園幼稚園教員養成所廃止
			4月	安田小学校開校
				安田幼稚園を安田女子短期大学付属幼稚園と改称
1961年		36年	4月	短期大学に家政科増設
1965年		40年	3月	広島Y・D・Mカレッヂ廃止
1966年		41年	4月	安田女子大学文学部日本文学科、英米文学科が安東校地に開学
1967年		42年	9月	短期大学を白島校地より安東校地に移転
1975年		50年	4月	大学文学部に児童教育学科増設
1981年		56年	4月	安田女子大学付属幼稚園を安東校地に開園
1984年		59年	4月	大学文学部英米文学科を英語英米文学科に名称変更
1988年		63年	4月	短期大学に秘書科増設
1991年	平成	3年	4月	短期大学家政科を生活科学科に名称変更
1994年		6年	4月	大学に大学院文学研究科修士課程日本語学日本文学専攻、英語学英米文学専攻、教育学専攻設置
1996年		8年	4月	大学院文学研究科に博士後期課程を設置
1998年		10年	4月	大学文学部に人間科学科を増設
2002年		14年	4月	大学文学部日本文学科を日本文学専攻、書道文化専攻の2専攻に分割
2003年		15年	4月	大学に現代ビジネス学部現代ビジネス学科を増設
2004年		16年	4月	大学に家政学部生活デザイン学科、管理栄養学科を増設
				大学文学部人間科学科を心理学科に改組、人間科学科は学生募集停止
				短期大学生活科学科は学生募集停止
2005年		17年	3月	短期大学生活科学科を廃止

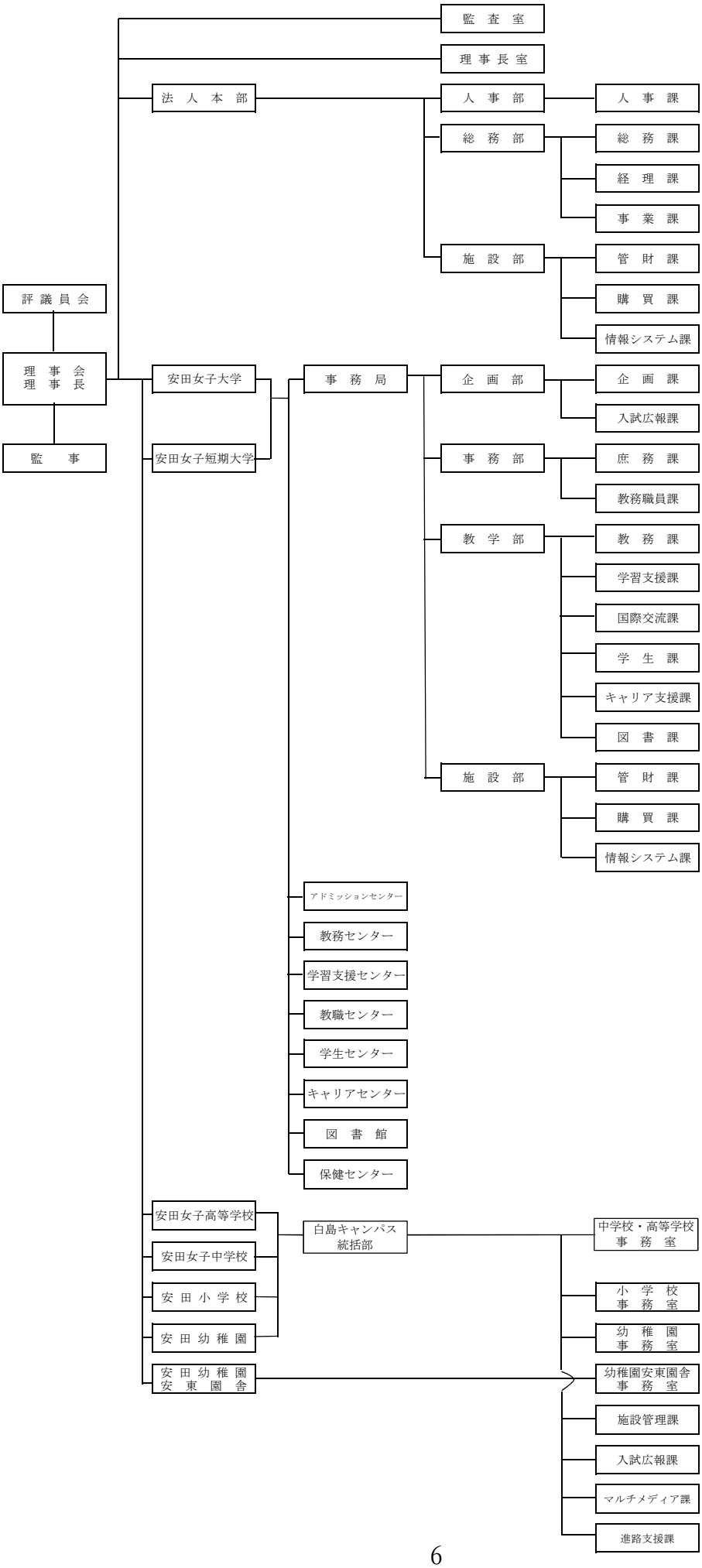
2007年	19年	4月	大学に薬学部薬学科（6年制）を増設
		9月	大学文学部人間科学科を廃止
2011年	23年	4月	大学文学部日本文学科日本文学専攻を日本文学科に改組、日本文学科日本文学専攻は学生募集停止
			大学文学部日本文学科書道文化専攻を書道学科に改組、日本文学科書道文化専攻は学生募集停止
2012年	24年	4月	大学文学部児童教育学科を教育学部児童教育学科に改組、文学部児童教育学科は学生募集停止
			大学文学部心理学科を心理学部心理学科に改組、文学部心理学科は学生募集停止
2013年	25年	4月	大学院に家政学研究科修士課程健康生活学専攻を増設
			大学院に薬学研究科博士課程薬学専攻を増設
2014年	26年	4月	大学に看護学部看護学科を増設
2015年	27年	3月	大学文学部児童教育学科を廃止
		4月	大学に現代ビジネス学部国際観光ビジネス学科を増設
			短期大学秘書科は学生募集停止
2016年	28年	3月	短期大学秘書科を廃止
		4月	大学に家政学部造形デザイン学科を増設
2017年	29年	9月	大学文学部心理学科を廃止
2018年	30年	4月	大学心理学部心理学科を現代心理学科に名称変更
			大学に心理学部ビジネス心理学科を増設
			大学院に看護学研究科博士前期課程看護学専攻を増設
			大学院に看護学研究科博士後期課程看護学専攻を増設
2020年	令和　2年	4月	安田女子短期大学付属幼稚園を安田幼稚園に改称
			安田女子大学付属幼稚園を安田幼稚園安東園舎に改称
			大学に現代ビジネス学部公共経営学科を増設

4．組　織　図

（1）学校機構図


学校法人　安田学園
安田女子大学大学院
文学研究科 博士前期課程 博士後期課程
日本語学日本文学専攻
英語学英米文学専攻
教育学専攻
教育学・心理学コース
臨床心理学コース
家政学研究科修士課程
健康生活学専攻
薬学研究博士課程
薬学専攻
看護学研究科 博士前期課程 博士後期課程
看護学専攻
安田女子大学
文学部
日本文学科
書道学科
英語英米文学科
教育学部
児童教育学科
心理学部
現代心理学科
ビジネス心理学科
現代ビジネス学部
現代ビジネス学科
国際観光ビジネス学科
公共経営学科
家政学部
生活デザイン学科
管理栄養学科
造形デザイン学科
薬学部
薬学科
看護学部
看護学科
安田女子短期大学
保育科
付属施設
図書館
実践教育研究所
発達・臨床心理研究所
心理教育相談室
薬用植物園
学習支援センター
教職センター
保健センター
安田女子高等学校
普通科
安田女子中学校
安田小学校
安田幼稚園
安田幼稚園安東園舎

（2）事務組織図


監　査　室
理 事 長 室
法　人　本　部
人　事　部
人　事　課
総　務　部
総　務　課
経　理　課
事　業　課
施　設　部
管　財　課
購　買　課
情報システム課
評 議 員 会
理　事　会
理　事　長
監　　事
安田女子大学
安田女子短期大学
事　務　局
企　画　部
企　画　課
入試広報課
事　務　部
庶　務　課
教務職員課
教　学　部
教　務　課
学習支援課
国際交流課
学　生　課
キャリア支援課
図　書　課
施　設　部
管　財　課
購　買　課
情報システム課
アドミッションセンター
教務センター
学習支援センター
教職センター
学生センター
キャリアセンター
図　書　館
保健センター
安田女子高等学校
安田女子中学校
安 田 小 学 校
安 田 幼 稚 園
安 田 幼 稚 園
安　東　園　舎
白島キャンパス
統括部
中学校・高等学校
事　務　室
小　学　校
事　務　室
幼　稚　園
事　務　室
幼稚園安東園舎
事　務　室
施設管理課
入試広報課
マルチメディア課
進路支援課

５．設置する学校の入学定員、編入学定員、収容定員、在学生数

2022年5月1日現在　　（単位:人）

設置学校	入学定員	編入学定員	収容定員	在学生数	備考
安田女子大学					
大学院					
文学研究科					
博士前期課程	30	－	60	17	
博士後期課程	9	－	27	5	
家政学研究科　修士課程	3	－	6	1	
薬学研究科　博士課程	2	－	8	0	
看護学研究科					
博士前期課程	10	－	20	4	
博士後期課程	3	－	9	2	
大学院計	57	－	130	29	
文学部					
日本文学科	90	1	362	386	
書道学科	30	1	122	117	
英語英米文学科	110	2	444	380	
文学部計	230	4	928	883	
教育学部					
児童教育学科	150	3	613	562	
教育学部計	150	3	613	562	
心理学部					
心理学科				1	
現代心理学科	90	1	272	326	
ビジネス心理学科	60	1	242	225	
心理学部計	150	2	514	552	
現代ビジネス学部					
現代ビジネス学科	90	1	393	416	
国際観光ビジネス学科	90	1	362	356	
公共経営学科	60	1	181	130	
現代ビジネス学部計	240	3	936	902	
家政学部					
生活デザイン学科	160	2	554	588	
管理栄養学科	120	－	480	451	
造形デザイン学科	75	－	315	294	
家政学部計	355	2	1,349	1,333	
薬学部					
薬学科	100	4	664	592	
薬学部計	100	4	664	592	
看護学部					
看護学科	120	－	480	501	
看護学部計	120	－	480	501	
学部計	1,345	18	5,484	5,325	
大学計	1,402	18	5,614	5,354	
安田女子短期大学					
保育科	150	－	300	272	
短大計	150	－	300	272	
安田女子高等学校					
全日制課程　普通科	270	－	810	746	
安田女子中学校	200	－	750	503	
安田小学校	80	－	480	494	
安田幼稚園	70	－	210	210	
安田幼稚園安東園舎	70	－	210	208	
学園合計			8,374	7,787	

６．役員等の概要

（１）役員

理事　　９　人（理事長１人含む）
監事　　２　人

2023年3月末現在

役員名	氏名	就任年月日	常勤・非常勤	担当する職務内容や期待する役割等
理事長	瀬 山 敏 雄	2022.4.1	常勤	学校法人安田学園 理事長
理事	瀬 山 敏 雄	2022.10.5	常勤	安田女子大学･短期大学 学長
理事	宝 嘉 正 博	2022.5.25	常勤	学校法人安田学園 法人本部本部長
理事	栗 栖 孝 明	2021.11.11	常勤	安田女子大学･短期大学 学長補佐 事務局局長
理事	川 本 有 美	2019.4.1	常勤	安田女子中学高等学校 校長
理事	世羅田 慎治	2022.10.5	常勤	安田小学校 校長
理事	安 田　　馨	2022.10.5	常勤	安田女子中学高等学校 副校長
理事	山 野 瑞 枝	2022.5.25	非常勤	卒業生との連携
理事	山 代 猛 博	2021.11.11	非常勤	外部情報の提供
理事	大方 幸一郎	2022.5.25	非常勤	外部情報の提供
監事	古 賀 康 弘	2022.5.25	非常勤	業務、財産及び理事の業務執行の監査
監事	武 井 康 年	2022.10.14	非常勤	業務、財産及び理事の業務執行の監査

（２）責任免除・責任限定契約、補償契約・役員賠償責任保険契約の状況

① 責任限定契約

私立学校法に従い、２０２０年１０月６日に責任限定契約を締結しました。

Ａ．対象役員の氏名

非業務執行理事（山野瑞枝、山代猛博、大方幸一郎）　監事（古賀康弘、武井康年）

Ｂ．契約内容の概要

非業務執行理事及び監事が任務を怠ったことによって生じた損害について、学園に対し賠償する責任は、その職務を行うにつき善意でかつ重大な過失がなく、その原因や職務執行状況などの事情を勘案して特に必要と認める場合には、私立学校法において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律で定める額（以下、「最低責任限度額」という。）を上限に学園があらかじめ定めた額と、最低責任限度額とのいずれか高い額を責任限度額とします。

Ｃ．契約によって職務執行の適正性が損なわれないようにするための措置

契約の内容に、役員がその職務を行うに当たり善意でかつ重大な過失がないときに限る旨の定めがあります。

② 補償契約

締結しておりません。

③ 役員賠償責任保険制度

私立学校法に従い、理事会決議により２０２０年４月１日から私大協役員賠償責任保険に加入しており、２０２２年度も前年同内容で継続加入しました。

Ａ．団体契約者

日本私立大学協会

Ｂ．被保険者

記名法人 … 学校法人安田学園

個人被保険者 … 理事長、理事、監事、および評議員

Ｃ．補償内容

ａ．役員（個人被保険者）に関する補償

法律上の損害賠償金、争訟費用等

b．記名法人に関する補償
法人内調査費用、第三者委員会設置・活動費用等
D．支払い対象とならない主な場合（職務執行の適正性が損なわれないようにするための措置）
法律違反に起因する対象事由等
E．保険期間中総支払限度額
５億円

（３）評議員

評議員　　25　人

2023年3月末現在

役員名	氏名	就任年月日	常勤・非常勤	学内での現職
評議員	瀬山　敏雄	2022.7.29	常勤	学校法人安田学園 理事長 安田女子大学･短期大学 学長
評議員	宝嘉　正博	2022.7.29	常勤	学校法人安田学園 法人本部本部長
評議員	栗栖　孝明	2022.7.29	常勤	安田女子大学･短期大学 学長補佐 事務局局長
評議員	山野　瑞枝	2022.7.29	非常勤	―
評議員	山代　猛博	2022.7.29	非常勤	―
評議員	大方　幸一郎	2022.7.29	非常勤	―
評議員	鈴木　育江	2022.7.29	非常勤	―
評議員	八反田三千子	2022.7.29	非常勤	―
評議員	本多　立憲	2022.7.29	非常勤	―
評議員	藤田　香奈美	2022.10.5	非常勤	―
評議員	池田　智子	2022.7.29	常勤	安田女子大学･短期大学 学長補佐 大学教授
評議員	染岡　慎一	2022.7.29	常勤	安田女子大学・短期大学 学長補佐 大学教授
評議員	髙口　圭轉	2022.7.29	常勤	安田女子大学･短期大学 学長補佐 大学教授
評議員	川本　有美	2022.7.29	常勤	安田女子中学高等学校 校長
評議員	世羅田　慎治	2022.7.29	常勤	安田小学校 校長
評議員	安田　　馨	2022.7.29	常勤	安田女子中学高等学校 副校長
評議員	山本　勝也	2022.7.29	常勤	安田幼稚園 園長
評議員	三上　留美	2022.7.29	常勤	安田幼稚園安東園舎 園長
評議員	石田　泰隆	2022.7.29	常勤	安田女子中学高等学校 教諭
評議員	小川　圭司	2022.7.29	常勤	安田女子大学・短期大学 事務局次長
評議員	佐藤　　聡	2022.7.29	常勤	学校法人安田学園白島キャンパス 統括部部長
評議員	谷　　俊之	2022.7.29	常勤	学校法人安田学園 法人本部人事部部長
評議員	川畑　　誠	2022.7.29	常勤	学校法人安田学園 法人本部本部長補佐
評議員	大西　英之	2022.7.29	常勤	学校法人安田学園 法人本部総務部部長
評議員	瀬山　　朋	2022.10.5	常勤	学校法人安田学園 法人本部総務部総務課

（４）教職員

2022年5月1日現在

区　　分	教　　員	事務職員	非常勤教員	兼務職員
安田女子大学	217	117	196	63
安田女子短期大学	12	4	8	5
安田女子高等学校	53	15	9	14
安田女子中学校	39	10	6	6
安田小学校	28	4	4	10
安田幼稚園	14	2	0	14
安田幼稚園安東園舎	12	2	0	12
その他	0	1	0	2
学　園　合　計	375	155	223	126

Ⅱ．事業の概要

１．当該年度の主な事業

（１）安田女子大学・安田女子短期大学

①　中期計画の進捗・達成状況

Ａ．3 つのポリシーは公式ホームページで公表し、学生、教職員及び地域社会に周知しています。また、教育の一層の充実を図ること及び普遍（不変）な事項と変化する事項の検証を行うことを目的に、ディプロマポリシーとカリキュラムポリシーの改定を行いました。

Ｂ．自己点検・評価は本学の責任において恒常的に行い、質保証に努めることを目的とし、外部の評価員及び自己点検・評価委員会にて 3 つのポリシーに沿った適正な運用状況を検証しました。その後、ＦＤ委員会で報告し、3 つのポリシーに沿った人材養成、教育の実施、入学生の確保がされていることを点検しました。

Ｃ．本学では 2014 年度より入学生全員に一人一台のノートパソコンを配付し、学内のＩＴ環境を整備するとともに、入学時より数理データサイエンス・ＡＩ初級教育に取り組んできました。教養教育における情報教育・データリテラシー授業内容も継続的に見直しており、2022 年度には、数理・データサイエンス・ＡＩ教育プログラム認定制度で「数理・データサイエンス・ＡＩ　教育プログラム（リテラシーレベル）」に認定されました。

また、文学研究科教育学専攻における教育学分野のさらなる充実を図るため、教育課程の検討を進めました。

全学的・組織的な授業改善を目的とし、従前から大学・短期大学の全ての授業を対象に行っていた授業参観制度を 2023 年度から大学院にも導入します。

Ｄ．公式ホームページでの 3 つのポリシーの公表に加え、求める人材像を『入学試験ガイド』『入学試験要項』に記載し、入学前段階から理解を促しました。更に公式ホームページにおいて、受験者・志願者の動向を踏まえた記事の更新により、閲覧者・閲覧数ともに増加させました。さらに、自己表現型選抜の面接において、質疑応答に加えて、アピールしたいことを自由に表現できる「自由表現」（創作物、企画アイデア、特技・技能等）を可能とし、安定的な志願者の獲得に努めました。

Ｅ．対面を基本とする学生募集活動を積極的に展開した一方で、遠方の高校における出張講義や高校内説明会においては、オンライン方式も活用しました。主な学生募集活動は、春のキャンパスフェア（4 月）、高校 3 年生・保護者対象大学説明会（6 月）、オープンキャンパス（7・8 月）、高校訪問（通年）、キャンパス見学（通年）、出張講義（通年）、高校内説明会（通年）等です。入学試験では学外試験会場を中四国・九州（沖縄含む）の全県と大都市圏（東京、大阪、名古屋）に設置し、県内・近県に加え、学生募集エリアの新規開拓と広域化を図りました。入学者選抜においては、厳正な実施と定員管理を行いました。

Ｆ．電子データで効率的に出席状況を把握し、授業における出席確認の時間削減を図りました。更に複数の評価方法を併用して授業の到達目標に照らした学修の達成度を多様な観点から評価することをシラバスに示し、厳格かつ適正な評価を通じた単位認定を行うとともに、学科ごとのＧＰＡの分析により成績分布の把握を行いました。また、全学生を対象に実施した「学生生活に関する実態調査」集計結果を分析し、学科ごとの学修状況、学生生活について現状を把握し、大学運営に活かしました。これらの取り組みにより、多角的な

教育の質の保証に努めました。

Ｇ．ＦＤ委員会、人事部人事課や企画部企画課によるＦＤ・ＳＤの企画・運営により、計画的かつ体系的な研修を行い、自己啓発を例年通り推進しました。特に新任教職員については、複数回研修を行い、本学園の建学の精神及び教育理念の浸透を図りました。また、本学では各学部・学科において活発にＦＤ活動が展開されており、他学科のＦＤ研修会を参考にＦＤ活動のより一層の活性化を図ることを目的とし「学科ＦＤ通信」を作成しました。

Ｈ．短期大学保育科では、幼保連携の重要性を全学生に説明し、教育を行いました。その結果、2022 年度卒業生は幼稚園教諭二種免許状 100%、保育士資格 97.2%の取得率で、学びを活かした進路決定を行い、就職率100%を達成しました。潜在保育士・幼稚園教諭・保育教諭の復職支援のための研修や現任の保育士等のキャリアアップについては、広島県との連携協力協定の枠組みを利用して進めています。

② 対面授業実施状況

2020 年度と 2021 年度は、広島県での新型コロナウイルスの感染状況等により、一時的に遠隔授業（オンライン授業）の実施を余儀なくされましたが、2022 年度は感染症対策を講じながら全面的に対面授業を実施しました。本学では、キャンパスで学生・教職員が共に相対面して学ぶことを最も重要なことと考え、対面授業を通じて、学生自身がコミュニケーションの大切さや体験の重要性、学修の成果を実感できるよう、学修環境の充実に努めました。

③ 「教職課程再課程認定申請」事後調査

教育職員免許法及び同施行規則の改正（2019 年 4 月施行）に伴い、2018 年度に申請した「再課程認定」で、認定結果に付された留意すべき事項への対応を行いました。事後調査の内容は、幼稚園教諭の教職課程における「領域に関する専門的事項」の開設と教員の追加で、対象となる教育学部児童教育学科と短期大学保育科では、教育課程の変更を行い「再課程認定事後調査対応届」を提出しました。文部科学省での審査の結果、2022 年 12 月 23 日付けで対応完了の通知を受理しました。

また、上記 2 学科では、教育課程の変更に伴い保育士資格課程の変更申請も行いました。

④ 授業料減免支援等を中心とした学生支援

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により家計が急変した世帯の学生を支援しました。2022 年度は 7 名に対して 1 人当たり授業料 20 万円（休学した学生は 12 万円）を減免することを決定し、減免合計額は 152 万円となりました。日本私立大学振興・共済事業団より減免合計額の 3 分の 2 に当たる 101 万円の交付金を受けました。また、2022 年度は独立行政法人日本学生支援機構が公募した「物価高に対する経済対策支援事業」に採択され、合計 200 万円の交付金を受けました。

⑤ 朝食無料提供及び夕食半額補助

「学生食堂まほろば」で新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じながら、2020 年度、2021 年度に引き続き、本年度も朝食の無料提供を行いました。より多くの学生に毎日朝食を食べてから勉学に励んでほしい、朝食をとることで生活リズムを整えてほしいという思いで継続して支援しています。

なお、夕食は、通常 400 円のところ、半額補助を行っています。

⑥　奨学金／留学生交流支援制度（短期派遣）

本学の海外留学プログラムに参加する学生を経済的に支援するため、独立行政法人日本学生支援機構の海外留学支援制度（協定派遣）に以下のプログラムが採択され、実施しました。

海外留学支援制度（協定派遣）とは、日本の大学、大学院及び短期大学等が諸外国の学校等と学生交流に関する協定等を締結し、それに基づく諸外国の学校等への短期間の学生派遣を支援する奨学金です。

本学は、対象の海外留学プログラム参加学生で本奨学金の給付を希望する学生を選考し、合計 188 名に独立行政法人日本学生支援機構から受けた奨学金 7,192 万円を給付しています。

【奨学金の対象プログラム】

Ａ．英語英米文学科　アメリカ派遣 6 ヵ月留学（STAYS）3 年生

Ｂ．英語英米文学科　アメリカ派遣 6 ヵ月留学（STAYS）2 年生

Ｃ．国際観光ビジネス学科　国際観光ハワイプログラム（HIBISCUS program）2 年生

Ｄ．児童教育学科　海外教育語学研修（SEEC）

Ｅ．現代ビジネス学科　海外語学ビジネス研修（G.LABOS）

Ｆ．全学科　北米文化語学演習（NACLP）

⑦　奨学金/安田女子大学海外研修支援制度

本学は、対象の海外留学プログラムに参加する学生を経済的に支援するため、上記の独立行政法人日本学生支援機構の奨学金要件に満たなかった学生 85 名に対し、 1,700 万円を支援しています。

【支援金の対象プログラム】

Ａ．英語英米文学科　アメリカ派遣 6 ヵ月留学（STAYS）3 年生

Ｂ．英語英米文学科　アメリカ派遣 6 ヵ月留学（STAYS）2 年生

Ｃ．国際観光ビジネス学科　国際観光ハワイプログラム（HIBISCUS program）2 年生

⑧　教育ローン利息補給奨学金給付制度

本奨学金給付制度は、指定金融機関の教育ローンを利用して納入する学納金等に係る利息の一部を奨学金として学生又は学生の保護者に補給するものです。

2022 年度は、本奨学金の給付を希望する学生を選考し、合計 51 名に総額で約 167 万円を給付しました。

⑨　新入生歓迎行事

オリエンテーションセミナー（通称：オリゼミ）は、1976 年から 46 年続いている本学の伝統行事です。2022 年度も毎年 4 月から 5 月にかけて新入生を対象に、広島県江田島市または島根県大田市の研修施設で 2 泊 3 日のグループ研修を実施しました。

日程	学科	研修先
2022年 5月 5日～ 7日	英語英米文学科 造形デザイン学科	国立江田島青少年交流の家

2022年 5月 7日～ 9日	現代心理学科 公共経営学科 薬学科	
2022年 5月 9日～ 11日	日本文学科 書道学科 生活デザイン学科	
2022年 5月11日～ 13日	ビジネス心理学科 現代ビジネス学科 国際観光ビジネス学科	
2022年 4月23日～ 25日	保育科	国立三瓶青少年交流の家
2022年 5月 7日～ 9日	管理栄養学科	
2022年 5月 9日～ 11日	児童教育学科	
2022年 5月11日～ 13日	看護学科	

⑩ 学習支援

A．課外講座

開講及び受講状況は、次のとおりです。

提供講座：33 講座　　開講講座：30 講座　　延べ受講者数：542 名

2022 年度から Microsoft Office Specialist（MOS）講座は、受講料の一部を安田女子大学後援会が補助しています。

B．ボランティア活動

65 件のボランティア活動の募集を行い、延べ 34 名の学生が参加しました。

C．各種検定試験

学内で申込みを受け付けている検定試験は、「Test of English for International Communication（以下、TOEIC®という。）」「日本漢字能力検定」「文部科学省後援 秘書技能検定（以下、秘書検定という。）」「日本商工会議所及び各地商工会議所主催簿記検定試験（以下、日商簿記検定という。）」です。秘書検定と日商簿記検定以外の検定は、学内で試験を実施しています。また、これらの検定試験（硬筆書写技能検定、毛筆書写技能検定を除く）は、受験料の一部を安田女子大学後援会から補助を受けています。2022 年度における各検定試験の申込者数は、下表のとおりでした。

（単位：名）

検定試験	級	第 1 回	第 2 回	第 3 回	第 4 回	合計
TOEIC®	—	380	142	296	238	1,056
日本漢字能力検定	2 級	31	30	18		79
	準 2 級	7	5	5		17
秘書検定	準 1 級	7	10	0		17
	2 級	59	76	30		165
	3 級	7	14	1		22

日商簿記検定	2 級	3	3	1		7
	3 級	51	27	37		115

D．公務員勉強会

公務員勉強会には、1 年生から 6 年生まで 202 名が参加し、セミナールーム（A 棟 402 室）での自主勉強会及び個別指導を行いました。更に資格スクールにより学内で行われる 2022 年度受験者向けの直前講座（18 名受講）と 2023 年度受験者向けの通年講座（125 名受講）の 2 講座を開講しました。

2022 年度卒業生の公務員就職決定先は、行政職（地方上級）13 名、資格職（保健師・栄養士等）6 名、公安職（警察）2 名でした。

E．海外研修プログラムの実施

外国の言語や会話の学習に加えて文化や習慣について理解を深めるために「海外研修プログラム」を実施し、単位認定をしています。2022 年度は以下のプログラムを実施しています。

a．アメリカ/カナダ派遣 6 ヵ月留学（STAYS）16 単位
対　象：　大学文学部英語英米文学科 3 年生（参加者：47 名）
期　間：　2022 年 5 月 10 日～2022 年 9 月 15 日（129 日間）
派遣先：　カリフォルニア大学デイヴィス校（アメリカ）

b．アメリカ/カナダ派遣 6 ヵ月留学（STAYS）16 単位
対　象：　大学文学部英語英米文学科 3 年生（参加者：45 名）
期　間：　2022 年 5 月 8 日～2022 年 9 月 15 日（131 日間）
派遣先：　ピッツバーグ大学（アメリカ）

c．アメリカ/カナダ派遣 6 ヵ月留学（STAYS）16 単位
対　象：　大学文学部英語英米文学科 2 年生（参加者：44 名）
期　間：　2022 年 9 月 18 日～2023 年 1 月 25 日（130 日間）
派遣先：　カリフォルニア大学デイヴィス校（アメリカ）

d．アメリカ/カナダ派遣 6 ヵ月留学（STAYS）16 単位
対　象：　大学文学部英語英米文学科 2 年生（参加者：39 名）
期　間：　2022 年 9 月 5 日～2023 年 1 月 12 日（130 日間）
派遣先：　ピッツバーグ大学（アメリカ）

e．国際観光ビジネス学科国際観光ハワイプログラム（HIBISCUS program）16 単位
対　象：　大学現代ビジネス学部国際観光ビジネス学科 3 年生（参加者：48 名）
期　間：　2022 年 4 月 7 日～2022 年 6 月 23 日（78 日間）前半グループ
派遣先：　ハワイ大学マノア校（アメリカ）

f．国際観光ビジネス学科国際観光ハワイプログラム（HIBISCUS program）16 単位
対　象：　大学現代ビジネス学部国際観光ビジネス学科 3 年生（参加者：45 名）
期　間：　2022 年 6 月 23 日～2022 年 9 月 8 日（78 日間）後半グループ
派遣先：　ハワイ大学マノア校（アメリカ）

g．国際観光ビジネス学科国際観光ハワイプログラム（HIBISCUS program）16 単位
対　象：　大学現代ビジネス学部国際観光ビジネス学科 2 年生（参加者：42 名）
期　間：　2022 年 9 月 30 日～2023 年 2 月 5 日（129 日間）前半グループ

派遣先：　ハワイ大学マノア校（アメリカ）

h. 国際観光ビジネス学科国際観光ハワイプログラム（HIBISCUS program）16 単位

対　象：　大学現代ビジネス学部国際観光ビジネス学科 2 年生（参加者：44 名）

期　間：　2023 年 2 月 21 日～2023 年 6 月 29 日（129 日間）後半グループ

派遣先：　ハワイ大学マノア校（アメリカ）

i. 児童教育学科海外教育語学研修（SEEC）2 単位

対　象：　大学教育学部児童教育学科 1～3 年生（参加者：20 名）

期　間：　2023 年 2 月 25 日～2023 年 4 月 1 日（36 日間）

派遣先：　ヴィクトリア大学（カナダ）

j. 現代ビジネス学科海外語学ビジネス研修 b（G.LABOS b）2 単位

対　象：　大学全学部（参加者：20 名）

期　間：　2022 年 8 月 12 日～2022 年 9 月 14 日（34 日間）

派遣先：　ワシントン大学（アメリカ）

k. 北米文化語学演習（NACLP）2 単位

対　象：　大学 1～3 年生、短期大学 1 年生（参加者：11 名）

期　間：　2023 年 2 月 25 日～2023 年 4 月 1 日（36 日間）

派遣先：　ヴィクトリア大学（カナダ）

Ｆ．文部科学省「官民協働海外留学支援制度～トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム～」

児童教育学科の学生 1 名が、第 14 期生として大学全国コース（多様性人材コース）に参加しました。オランダ/英国/タイにおいて 10 ケ月間の教育活動（イエナプラン）に関するインターンシップを実施しました。

⑪　就職活動支援

企業の採用活動オンライン化は継続しており、オンライン面接用の部屋と照明機器などを用意し、学生が安心して面接を受けられる環境を整備しています。個別指導で学生一人ひとりの自立を支援し、積極的できめ細かいサポートを行った結果、大学の就職率は、98.8％（2021 年度比▲0.3 ポイント）でした。短期大学の就職率は、11 年連続 100％でした。

また、引き続き U ターン就職及び首都圏等の県外で就職活動を行う学生に対して、就職活動における旅費補助制度を設けています。

Ａ．対象となる就職活動

・説明会参加
・インターンシップ参加
・採用選考参加

Ｂ．補助金額

・A 地区（北海道、東北地方、関東地方、中部地方、沖縄地方）	20,000 円
・B 地区（近畿地方、九州地方）	8,000 円
・C 地区（中国地方※広島県除く、四国地方）	3,000 円

Ｃ．ルール

・最大 5 回申請可（※説明会参加は最大 2 回）

⑫　入学式

本学体育館で開催し、入学生・本学関係者のみで挙行しました。式典の模様は学内・学外へライブ配信しました。入学式終了後に学科・専攻別にオリエンテーションを実施しました。

⑬　卒業式・修了式

本学体育館で開催し、卒業生・修了生・本学関係者のみで挙行しました。式典の模様は学内・学外へライブ配信しました。

⑭　保護者懇談会

保護者の方々に来学いただき、教員との面談や施設見学をとおし、本学の教育等に理解いただくことを目的に保護者懇談会を開催しました。各学科別の説明会の終了後は、希望者にはチューターによる就職・進路に関する個別面談を行いました。

⑮　ピアノコンクールの開催

日頃のピアノ演奏の練習成果を発表する機会とし、あわせて音楽追求への意欲と意識の高揚を図ることを目的として本学の学生を対象に「第 3 回安田ピアノコンクール」を 12 月に開催しました。アドバンスト部門 107 名、ビギナーズ部門 268 名、合計 375 名が出場し、各部門で最優秀賞 1 名、優秀賞 1 名、唐花特別賞 1 名、審査員特別賞 4 名を表彰しました。

⑯　フォトコンテストの開催

キャンパス内の施設、風景、大学生活などを撮影した写真を募る「第 12 回安田フォトコンテスト」を 12 月に開催しました。テーマ部門「18 ぷらす」に 20 点、自由部門 31 点、合計 51 点の応募がありました。フォトコンテスト選考委員による審査を経て、最優秀賞 1 点、優秀賞 2 点、審査員賞 4 点の作品が入賞しました。

⑰　施設改修及び整備

A．図書館屋上防水更新

建築後 24 年が経過し、老朽化による雨天時の漏水等がみられたため、天井崩落等の災害防止対策として屋上防水の改修工事を行いました。

B．7 号館大教室 床更新

設置後 29 年が経過し、劣化した大教室の床を更新することで、教育環境の改善に取り組みました。

C．8 号館のＬＥＤ化

設置後 24 年が経過した照明設備を、照度確保による環境改善、安全確保、省エネルギー化を目的としてＬＥＤ化しました。

D．教育基盤システム更新

学園全体の認証システム、ネットワークシステム、大学・短大の教育系サーバー群が稼働する教育基盤システムを更新しました。また、ネットワーク系サービスの一部をクラウドへ移行することによる運用の効率化、仮想技術による物理サーバーの集約を更に進めることで省エネルギー化を図りました。

（２）安田女子高等学校・安田女子中学校

①　教科連携による探究的な学習の取り組みと高大連携の推進

新しい学習指導要領では日常の授業においても探究的な取り組みが重視され、自ら課題を設定し、その解決に向けて協働的に取り組むことが求められています。本校でもその流れを意識しつつ、総合的な探究の時間と教科との連携を図りながら、探究的な学習に取り組んで

います。

また、高大連携をより一層推進するため、カリキュラムの改定により高校 2・3 年生総合コースにはＬＣ活動（ともに 3 単位）、高校 3 年生総合コースには高大連携講座（2 単位）という学校設定科目を新設し、安田女子大学を中心として、近隣大学との連携をより強化しました。12 月には校内で、全校生徒による探求発表会を行い、日頃の活動の成果を発表しています。

② 進路観育成と進路指導の取り組み

6 年間をとおして生徒が適切な進路選択と主体的学習を行い、自らの進路実現を可能にしていけるよう取り組んでいます。補習は発達段階によりレベル分けし、より適切で主体的な学習ができるよう配慮しています。また高等学校入学時から卒業まで、一貫した進路指導を行い、進路実現ができるよう各学年で下表のような取り組みをすすめています。

	「進路観の育成や進路指導」に関する主な取り組み
高校 1 年生	学部・学科研究　進路講演会　広大・東大・京大へのオープンキャンパス参加　大学へのオープンキャンパス参加　大学の出張講座受講　模擬授業　早朝・放課後の補習授業　夏期補習　春期補習　学習合宿　進路面談　教科面談
高校 2 年生	進路講演会　広大・東大・京大へのオープンキャンパス参加　大学の出張講座受講　早朝・放課後の補習授業　夏期補習　春期補習　学習合宿　進路面談　教科面談
高校 3 年生	進路講演会　早朝・放課後の補習授業　夏期補習　春期補習　学習合宿　進路面談　教科面談

＊新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、一部オンラインで実施

③ 牛田総合グラウンドの活用

牛田総合グラウンドでは、日常の体育の授業はもとより、放課後の部活動においても有効に活用しており、各種大会での好成績につながっています。

④ 教員研修の充実

新しい学習指導要領では日常の授業においても探究的な取り組みが重視され、生徒が主体的に学習活動に取り組むように指導することが求められています。

そのため本校においても、生徒が探究的・主体的な授業の取り組みにより、思考力・判断力・表現力を向上させることができるように、ＩＣＴ機器の活用や協働的な授業の取り組みなどを中心に、公開・研究授業を推進しました。

⑤ 国際交流

高等学校では夏期海外研修、短期・長期留学などをとおして、異文化体験をし、国際的な視野を広げると共に、日本の伝統文化への理解を深める取り組みを行っています。例年は夏休み中にニュージーランド・ダニーデン市の姉妹校オタゴ女子高校への語学研修、また台湾蘭陽市の姉妹校、国立蘭陽女子高級中学との交流を実施していますが、2020 年度～2022 年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、オンラインでの交流となりました。

計画していた以下の国際交流等は中止となりました。

Ａ．オタゴ女子高校への語学研修・留学

ａ．夏期海外研修

期　間　　夏期約 3 週間　　参加者　　高校 1 年生約 30 名

ｂ．3 ヶ月留学

期　間　　2022 年 7 月～10 月　約 3 か月　希望による

ｃ．ニュージーランド 3 ヶ月留学受入（ホームステイ）

期　間　　2022 年 12 月～2023 年 2 月

Ｂ．台湾蘭陽市の姉妹校国立蘭陽女子高級中学校との交流

ａ．ＳＳコースの学術的交流(国立蘭陽女子高級中学校訪問)

期　間　　2022 年 6 月　　4～6 名程度

ｂ．生徒研究発表会と学術的交流(国立蘭陽女子高級中学校の生徒が来校)

期　間　　2022 年 12 月

⑥　体育祭

6 月に、広島県立総合体育館（グリーンアリーナ）で開催しています。例年、中学と高校を別日で開催していたものを同日開催とし、多くの保護者の方々にも来場いただき、盛大に行っています。（2021 年度、2022 年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため午前中学、午後高校での時間別開催）

⑦　オンライン英会話の実施

英語において、書く、読む、聞く、話すの 4 技能が重要視される中で、特に生徒のスピーキングとリスニングの能力を高めることを目的に、中学 3 年生から高校 2 年生までを対象に Weblio オンライン英会話を実施しました。年 10 回を目標に授業内での実施をすることとし、英検合格者の増加及び英語を話すことへの心理的バリアを取り除く効果があると期待しています。

⑧　生徒証明証のカード化

従来、毎年紙の生徒証明証を作成していましたが、写真の貼付、押印等で事務負担が多大でした。紙の証明証をプラスチック製カードに仕様変更することで、新入生の時に一度作成すれば卒業まで継続できるようにし、効率化を図っています。

⑨　中学校入試インターネット出願システムの導入

中学校入試においてインターネット出願システムを導入し、出願登録、選考料の納付、受験票ダウンロード、合格発表、入学手続きまでのシステム管理を実現しました。入学金の支払いについては、本校での現金による手続きを廃止し、銀行振込・コンビニエンスストアでの入金を可能にしたことで、保護者の負担軽減を図っています。

⑩　ルールメイカー育成プロジェクト

2019 年度から経済産業省「未来の教室」事業「ルールメイカー育成プロジェクト」のモデル校として、生徒が主体となった校則の見直しを進めています。

このプロジェクトは、対話的・民主的な合意形成のプロセスを経て、生徒たち自身が教員・保護者などと協働して校則やルールを見直し、より良いルールに変えていく取り組みで

す。2022年度も多くの生徒がプロジェクトに参加し、生徒や保護者にアンケートを実施し、校則の見直しや学校生活環境の改善について、学校と対話をしながら取り組みを進めています。

⑪　YasudaPlusの導入

オンライン型の自学自習教材 YasudaPlus を校内で展開しています。受講を希望する生徒は、校内に常駐する担当者と一緒に、週に１度学習会に参加して進捗管理を行いながら、個々の学習レベルに応じた学習に取り組み、成果を上げています。

⑫　安田リヨウ記念講堂の完成と食堂利用開始

安田リヨウ記念講堂の完成に伴い、９月より１階に食堂がオープンしました。昼食時には焼きたてパンやサイドメニューの販売を行い、多くの生徒が利用しています。

⑬　施設・設備改修整備

Ａ．新校舎の活用

ａ．日本文化体験を目的とした教室

茶道などの日本文化を体験できる３階和室は 52 畳の広さがあり、半分に仕切って利用することも可能です。授業だけでなく課外授業（茶道、箏曲）でも活用し、小学校など白島キャンパス全体での利用もしています。

ｂ．換気設備

校舎に24時間換気設備が導入され、1時間あたり平均4.2回の空気入れ替えを行っています。この設備により、感染症対策や二酸化炭素濃度の低下を実現しています。

ｃ．その他設備の設置等

6 階ホールにオーダーメイドの半円ベンチ、変形Ｌ型ベンチを設置したほか、屋上には 18 脚のルイジアナベンチをバランスよく配置しています。ともに生徒たちの憩いの場となっています。また、2 階ラーニングコモンズには、マウンテンアッシュの人工樹木を設置しています。開放的な学習スペースに置くことで、明るく心地良い空間となっています。

Ｂ．生徒への iPad 配布等ＩＣＴ機器の整備

校内の Wi-Fi 環境を整備し、中学生、高校生ともに生徒１人に１台の iPad を貸与することで、ＩＣＴを活用した学力の向上、情報の共有化に努めています。

授業での活用	ロイロノートを活用した協働的な授業、課題の配信、個別添削 Google Form を活用した授業評価、アンケートの実施
情報の共有化	Google classroom を活用した学校、学年、クラス内での情報の提供
その他の活用	高校生はスタディーサプリを活用したアダプティブラーニング

Ｃ．ラインチェッカーの導入

中学生を対象に登下校管理システム「ラインチェッカー」を導入しています。生徒にビーコン（受信機）を持たせ、学校の昇降口設置の専用リーダーを通過することで、保護者へメール連絡が届くようになっています。専用リーダーは非接触型で、生徒も特にカードをかざす等の必要もなく、昇降口を通過するだけで良いので、かざし忘れや混雑することもなく運用できています。保護者にとって、中学生の登下校は心配事のひとつであり、生徒の状況を把握できることは、安心に繋がっています。

（３）安田小学校

① 教師力を高める研修（学力と品格を高める安田の教育をめざして）

A．授業力向上

教員の授業力向上をめざし、「自ら学ぶ力を育てる授業の創造」を研究テーマに授業研究を全教員で行いました。教科ごとにチームを作り、全員が研究授業を公開し、その後、研究協議会で意見交換を行いました。特に、研究授業を行ったことにより、子どもの思考力を高めることにつながったことは大きな成果でした。また、毎週金曜日の放課後に、教員間で授業について自由に話ができる場を持ち、日々の教材研究に力が入り、個々のレベルアップにつながりました。

B．しつけ教育指導力向上

しつけ教育の重点目標のふり返りを行いました。全体での意識統一を図ることができ、児童への指導および学級経営に活かすことができました。

C．新しい校舎での教育活動

1 階くすのき広場において、ミニ火山を使った噴火実験を行いました。また回廊にコースを設置して視覚障碍者歩行体験を行うなど、新校舎の空間を新しい学びの場として活用した教育を実践しています。

② 一貫校としての取り組み

A．幼稚園・小学校の連携

安田小学校独自の教科「くすのき」を活用し、2 年生は 6 月に、安田幼稚園安東園舎の年長園児とリモートで「おもちゃまつり」で交流しました。4 年生は 10 月に、安田幼稚園の年長園児とリモートで読書交流「おはなし広場」を実施しました。また 1 年生は 11 月に安田幼稚園の年中園児と「あそびのひろば」で交流しました。

B．中学高等学校・小学校の連携

中学・高等学校の教員間で研究授業に相互参加し、情報交換をしました。

C．大学・小学校の連携

12 月に 5 年生全員で安東キャンパスの施設見学・授業体験を行い、2 月には同じく 5 年生を対象に管理栄養学科の学生による食育教室を実施しました。

③ 保護者との連携

年 6 回、保護者会パパ倶楽部の方が毎回 20 名前後来校され、朝のあいさつ運動（ハロープロジェクト）を実施されました。この他にも、1 年生および 2 年生の茶道教室におけるお茶の準備や片付け、2 年生による安田ガイドマップ作りにおける校外探検での移動の手伝い、子どもまつりでのゲーム運営などで児童を楽しませていただきました。運動会では、テントの設営・撤収、当日の運営を手伝っていただきました。

④ 図書館教育の取り組み

子どもの心を耕し、学力を支える図書館教育を実践しています。新校舎では、オープンテラスや「たたみ島」などの開放的な空間を活用して、教室とは違う雰囲気の読み聞かせを定期的に開催しました。「ブックトーク」「ストーリーテリング」「パネルシアター」「読み合い」「アニマシオン」「読書会」などの読書指導や「分類番号」「図鑑と百科事典の使い方」「調べ学習」などの利用指導を図書の時間で行いました。パスファインダーを用いて図

書資料とＩＣＴを併用した調べ学習も行いました。また「リーディング・ビジット」「読書郵便」「ブックチャレンジ」「親子読書」「朝の 10 分間読書」「読書祭り」「英語の絵本の読み聞かせ」等をとおして、図書館教育の充実に取り組みました。

⑤　しつけ指導

『安田式しつけ教育』（書籍）に基づき、第 2 章「学校のしつけ」と第 3 章「授業のしつけ」についてカリキュラムを作成し、全学年で計画的にしつけ教育に取り組みました。第 1 章「家庭のしつけ」では保護者の方のご協力のもとで取り組みました。

⑥　安全指導・安全対策

Ａ．登校・下校指導

1 年生と 2 年生を対象に交通安全教室を行いました。また、教員が土曜日や学校行事での下校時に、学校の周りに立ち、児童の安全と迷惑をかけない態度について指導を行いました。

Ｂ．下校方面別指導

年 2 回、全学年一斉に下校方面別の話し合いの場を設け、「危険な箇所」や「子ども 110 番の家」の確認をするなど、危険回避能力の向上を図りました。

Ｃ．防災訓練

4 月に防災知識と避難方法を学習し、訓練を 2 回実施しました。

⑦　多様な体験活動・宿泊学習・鑑賞会等

Ａ．体験活動

ａ．4 年、5 年スケート教室：広島ビッグウェーブ

ｂ．6 年スノーボード教室：めがひらスキー場

Ｂ．宿泊学習

新型コロナウイルス感染症対策に留意して、実施しました。

ａ．3 年山の学習 1：もみのき森林公園　6 月 2 日から 1 泊 2 日

ｂ．4 年山の学習 2：帝釈峡　6 月 22 日から 2 泊 3 日

ｃ．5 年グローバルキャンプ：もみのき森林公園　6 月 23 日から 1 泊 2 日

ｄ．6 年まほろば学習：京都での日本の伝統文化体験学習　4 月 17 日から 2 泊 3 日

ｅ．5 年まほろば学習：京都での日本の伝統文化体験学習　10 月 17 日から 2 泊 3 日

ｆ．6 年山の学習 3：島根県三瓶山一帯　6 月 22 日から 2 泊 3 日（中止）

Ｃ．鑑賞会・特別授業

「一流のものを鑑賞させる」というテーマのもと、児童に本物の芸術を体験させ、豊かな情操を養い、芸術を愛する心を育むことを目的として内容を選定し実施しました。

ａ．鑑賞会

全学年が 10 月にミュージカル鑑賞会を行いました。

ｂ．特別授業

6 年生は 12 月に広島東法人会による「租税教室」の学習をしました。

⑧　グローバル人材育成プロジェクト

グローバル人材育成プロジェクトの一環として、以下の活動を行いました。

A．姉妹校との交流学習

2年生は12月にレディーマー・ルーザラン小学校の2年生からクリスマスカードを受け取り、そのお返しに安田小学校から年賀状を送り、交流を深めました。

5年生は5月にレディーマー・ルーザラン小学校の5年生から日本語で書かれた手紙を受け取り、安田小学校からは英語で手紙を送りました。これは、安田とレディーマー・ルーザランの児童のペア活動としての取り組みで、その後、手紙を送った相手と Skype で交信し自己紹介をしました。また、9 月には、お互いが質問状を送り、その返答をビデオ通話で行いました。

B．その他の国際理解学習

1 年生はハロウィンパーティー、2 年生はイースター学習をとおして英語圏の文化を体験しました。3 年生は学園のネイティブ英語教師に宮島のもみじまんじゅうやお好み焼き、平和公園など広島について英語で伝え、ネイティブ教師からは出身国について教えてもらう授業を行いました。同様に 4 年生はギニアの方からギニアの文化や習慣について学び、その方が演奏する民族音楽の太鼓や歌を聴き、手作りのマラカスを使って一緒に演奏しました。6 年生は平和学習の一環として平和のためにできることを考えた上で、社会科の授業で、国際問題を解決するための国連とＮＧＯの働きを学び、自分には何ができるか考えました。また、アメリカ人の広島平和文化センター元理事長を招き、外国人から見た広島の問題を平和的に解決する考え方について、聞く機会を設けました。

C．英語プログラム

英語を学び、使う機会を作ることを目的に、夏休みに4年生が、冬休みに3年生が約50名参加し、English Day Camp を実施しました。

英語の授業を1年生週3時間(年間102時間)、2年生週2.5時間(年間90時間)、3～6年生週2時間(年間70時間)実施しました。英語スピーチコンテストを開催して英語を話す場を作り、児童のモチベーションを上げることができました。また、英語専任教師 3 名を配置し、少人数授業やＴＴ授業を行うなど指導形態を工夫しました。

なお、オーストラリア・アデレード郊外での海外研修（4・5年希望者対象）は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止としました。

⑩　保護者支援

A．食堂での給食

従来の弁当による昼食を、9 月からは食堂での給食としました。弁当作りから解放されたこと、冬場でも温かい食事が提供されることに多くの保護者から喜びの声が寄せられています。

B．携帯電話の持たせ方

携帯電話所持に関する届出制のルールについて保護者への理解を図りました。

C．学校カウンセラーの配置

子育ての不安や悩みを相談する場として学校カウンセラーを配置しました。数名の保護者が継続的に利用されました。

D．アフタースクール

放課後の預かりとして「ホームクラス」では宿題や読書、校庭や室内での遊びを行いました。また、英語、そろばん、体操、サッカーなど知識や技能を培う「スタディコース」を18コースに増やし実施しました。特に今年度は、フットサル、ミニバスケットボール、

キッズダンスといった運動系の講座を新たに開きました。ホームクラスとスタディコースを併用することで最長19時までの放課後預かりが可能となりました。年々利用が拡大し全家庭の8割が利用登録しています。

E．「れんらくアプリ」の運用

定期健康観察や遅刻・欠席の連絡など、家庭と小学校との緊密な情報交換を目的として、「れんらくアプリ」を運用しています。

⑩　児童募集

A．学校公開week

6月6日（月）～11日（土）および6月27日（月）～7月2日（土）、本校の教育に興味を持たれている方を対象として「学校公開 week」を実施し、2 校時に授業参観をすべてのクラスで行いました。

B．入試説明会

8月20日（土）に入試説明会を実施し、学校紹介と入試制度の説明を行いました。

C．保護者面接（入学試験）

10月27日（木）、28日（金）

D．園児面接（入学試験）

11月1日（火）、2日（水）

E．オープンスクールweek

子どもの様子や学校を知る機会とするために、2 月 13 日（月）～18 日（土）に授業公開を実施しました。

（4）安田幼稚園

①　保育研究活動

A．重点目標と学校評価

今年度の教育における重点目標を4つの柱を通して「やさしい心たくましい力」の育成と定めました。

各柱には自己評価の視点として、①心通うあいさつは「挨拶」、②自然とのかかわりは「野菜や植物への関心」、③友達いっぱいは「異年齢児とのかかわり」、④おはなし広場は「英語への関心」に設定し、指導に努めました。

取組結果に対する学校評価では、保護者評価（Web アンケート、回収率 98%）で各項目とも4段階評価で3.8～3.9、自園評価でも3.6～3.9となりました。学校関係者評価委員会でいただいた意見と併せて課題を明確にし、次年度につなげていきます。

B．職員研修

6月から10月にかけて、教員がそれぞれ、運動遊び・歌唱指導・リトミック・絵画表現など自分の深めたい領域・テーマを決めて実践・研究に取り組みました。園内研究保育を行い、個々の研究課題について意見交換をし、個々の学びを全教員の共通理解につなげていきました。また、若手教員の育成と保育の質の向上をめざして、ベテラン教員の保育を年間 10 回程度参観し、互いの指導力を高めました。夏季休暇などを利用し、学園外研修やリモート研修にも数多く参加しました。

②　読書活動の充実

A．おはなし広場

園長による読み聞かせ「おはなし広場」を 18 年継続して行っています。年間開催回数は83 回、題材とした絵本 88 冊、紙芝居 82 冊で、クラスごとに実施するなどしました。プロジェクターと教材提示装置を使用することで大画面での読み聞かせが可能となり、園児が物語の世界に引き込まれる良い時間となっています。また、各学年とも、クラスでの日々の読み聞かせや月間絵本の活用にも力を入れています。

B．絵本の貸し出し

本園の読書活動については保護者にも浸透し、家庭での絵本の読み聞かせにも積極的です。借りた絵本の題名や作者、子どもの感想などを毎回記録する「絵本カード」は、園・保護者とのコミュニケーションツールとしても活用しています。

③　自然体験

安東キャンパス近くにある学園の農園等を活用し、四季折々の作物の苗植えや収穫の体験をしています。子ども達が収穫したじゃがいもや玉ねぎを使ってカレーパーティー、もち米での餅つき、さつまいもの焼き芋パーティーを実施しました。これらの活動を通して食への関心を深め、自然の恵みや管理してくださる方々への感謝の気持ちを育んでいます。

また、今年度もフラワーフェスティバルに飾る花を育てる「ピースフラワープロジェクト花育」に参加し、2 月からペチュニアの花の苗を育てました。

④　英語教育の充実

今年度、英語に親しめる幼稚園をめざして、英語教育に力を入れました。小学校から毎日ネイティブの英語教諭を招いて、絵本の読み聞かせや一緒に遊んだりしました。4・5 歳児は週に 1 回、ECC の正課レッスンを受けることで英語力の向上を図りました。また、3 歳児も週に1 回、ネイティブの英語教諭による絵本の読み聞かせや、歌やダンスをとおして英語に親しむ機会を設けています。日常の保育の中でも、朝の会や帰りの会では、英語に触れる機会を多く持ちました。年長児の大半が年齢や名前・天気などは、英語で簡単に受け答えができるレベルになっています。6 月・11 月・2 月には、ハローウィークを実施し、英語で朝や帰りの挨拶を行っています。

⑤　一貫校としての取り組み

A．小学生との交流

10 月には、年長組が安田小学校の 4 年生におはなし広場へリモートで招待してもらいました。おはなし広場では、小学生と一緒に手遊びをしたり、パネルシアター「ぽんたのじどうはんばいき」と「ゆうびんうさぎとおおかみがぶり」を見せてもらったりして楽しい時間を過ごしました。また、11 月には、年中組が安田小学校の 1 年生と交流会を持ちました。久しぶりに対面での交流となりました。1 年生が用意してくれたトントン相撲やすごろくで一緒に遊び笑顔いっぱいの年中組でした。小学生との交流体験は、就学への期待につながり、相互に思いを寄せ合う意義ある体験になっています。

B．高校生との交流

夏休みの預かり保育の手伝いに、幼児教育に関心のある安田女子中学高等学校の 6 年生（高校生）が来園しました。園で子ども達とかかわって夢が膨らみ、将来の自分を想像する

ことにつながり、園児、高校生、職員それぞれ意義のある交流となっています。同じキャンパス内だからこその貴重な経験となっています。

5月から10月にかけて安田女子高校STEAMコースの生徒が幼稚園児向け遊びの教材を開発しました。バランスゲーム「ゴロゴロ」・ひもを使用して遊ぶ「はやっしーさん」・図形を組み合わせて遊ぶ「まるものパズル」の3つです。教材製作の段階で、園児向けの体験会を開いたり、幼稚園の教員にアドバイスを求めたりしながら完成にこぎつけ、10月には完成した教材を預かり保育室に寄贈してくれました。その後3学期も交流が続き、年間で7回の交流機会を持ちました。

C．小学校長による教育講話

7月には、安田小学校校長を招いて教育講話を開催し、保護者41名が参加しました。安田小学校の教育内容と安田幼稚園からの内部進学に関して、特別選抜（専願）がスタートすることの説明があり、保護者の方にとっては、安田小学校の教育を理解する良い機会となりました。

D．「安田こども劇場」

併設短大の学生による「安田こども劇場」の発表を鑑賞し、子ども達の楽しい行事となっています。

⑥　防犯・安全（避難訓練）

園では、非常時に備え全園児で訓練を重ねています。不審者想定を年2回、地震想定を年3回、火事想定を年3回実施しました。また、3歳児が園バスに置き去りにされるという痛ましい事件を受けて、園児の危機管理意識を高めるために園バスでの訓練を実施しました。訓練では、置き去りにされたときの対処法として「窓を開ける方法を知る」「大きな声を出して助けを呼ぶ」「クラクションを鳴らす」の3つの方法を学びました。

⑦　子育て支援の充実

A．預かり保育

預かり保育の利用は、昨年度と比べ5%程度減少していますが、開園日が13日少ないことによります。1日平均の利用者数は、2021年度が約70名に対し、2022年度は約75名と増加傾向にあります。特に課外教室の参加が多い水曜日は、預かり保育の利用が100名近くなることもあります。共働きのご家庭が52%と半数を超えました。共働きのご家庭にとって、安心して預けることのできる場所として更なる充実を図ります。

＜時間帯別内訳＞　※人数は延べ数　※（　）は伸び率

	2020年度	2021年度	2022年度
早朝預かり	4,535名（　26%）	5,636名（　24%）	5,472名（△3%）
通常預かり	8,388名（△10%）	12,271名（　46%）	11,791名（△4%）
延長預かり（17-19時）	4,553名（　37%）	6,543名（　44%）	6,101名（△7%）
開園日の利用者総数	9,070名（△10%）	12,966名（　43%）	12,915名（　0%）
長期休業日の預かり	1,775名（　11%）	2,337名（　32%）	2,208名（△6%）

B．課外教室

今年度も英語・音楽・体育・バレエ・硬筆・サッカーの6つの課外教室を行いました。通常保育後、慣れた場所で好きな課外教室が選べ、共働きのご家庭の園児も参加できることから、複数の課外教室を利用する園児が増えています。対象が年長のみの硬筆教室は抽選に

なるほど大人気です。

C．親子登園・園開放・園庭開放

今年度も親子登園、園開放、園庭開放を実施し、未就園児親子に遊びの場を提供し、地域の子育て支援としての役割を担いました。年間の実施状況は下記の通りです。

行事名	対象	実施回数	参加状況　＊（　）は前年度
親子登園	2 歳児	84回	12グループ延べ481組の親子（20回で195組）
休園日の園開放	2 歳児	2回	延べ83組の親子（2回で95組）
開園日の園開放	1 歳児～	2 回	32組の親子（2 回で 20 組）
園庭開放	1 歳児～	9回	285組の親子（2回、50組）
個別見学会	2 歳児	7 回	35 組の親子（5 回で 22 組）

⑧　施設・設備

A．ＩＣＴ環境の整備

昨年度は教師用にタブレットを 10 台、今年度は園児用にタブレットを 10 台購入しました。それに伴い思考力を楽しく身に付けるための知育アプリ「シンクシンク」を導入しました。これらを導入することで、プログラミング的思考の育成に役立てたいと考えています。また、教師用タブレットと電子黒板を接続して映像や音楽を流す回数が増え、英語教育の推進にも役立てています。

⑨　給食

10 月から給食がスタートしました。学園の食堂で作られた給食を幼稚園まで運んでいます。喫食場所は幼稚園 3 階アフタースクールの教室です。温かくて美味しい給食は栄養価も高く、食べる楽しさを演出してくれています。毎日違うメニューが提供され、子どもたちにとって楽しい時間となっています。

（５）安田幼稚園安東園舎

①　保育・研究活動

A．重点目標と学校評価

a．重点目標と重点項目の策定

子どもたちが園にある環境に主体的に取り組むために、教師のかかわり方や園にある環境のさらなる活用のあり方を積極的に考えていきたいという思いから、今年度の教育における重点目標を「意欲的に環境に関わり、頭と体を存分に使って遊ぶ子どもの育成～環境に主体的に関わるための保育の充実を考える」～に設定しました。

本園の 3 つの教育の柱「自分が好き」「友達が好き」「自然が好き」から、各学年でめざす子ども像や具体的に取り組む事項を 1 項目ずつ重点項目として定めています。今年度は以下のとおり設定し、指導に努めました。

「自分が好き」…「食事のマナー」について

「友達が好き」…「友達との関わり」について

「自然が好き」…「戸外で体を動かして遊ぶ」について

b．取組結果に対する学校評価

取組結果に対する学校評価では、保護者評価（Web アンケート、回収率 100%）で各項目とも 4 段階評価で 3.8～3.9、自園評価でも 3.3～3.9 となりました。学校関係者評

価委員会でいただいた意見と併せて課題を明確にし、次年度につなげていきます。

B．子ども理解と園内研修の充実

今年度も担任が、絵本や運動遊び、環境構成など研究テーマを決めて研究保育や日々の保育、子ども理解について話し合いを重ねてきました。年度末には、全教員の研修を冊子にまとめました。

また、併設大学の学生の卒論研究と並行して、学生による子どもの行動観察やアンケートに協力しました。いろいろな見地からの観察とアドバイスをとおして子ども理解を深め、教師による援助のあり方を考え、日々の実践につなげています。

② 図書教育の推進

A．絵本の貸し出し

1 週間に 1 回の絵本貸し出しを継続しています。家庭での読み聞かせの時間を作り、親子で 1 冊の絵本の楽しさを共有することが、毎日の家庭生活の中に根付いてきていることを感じています。園の蔵書を充実させ、家庭との連携を図る「絵本ノート」を活用しながら、今後も読書活動を推進していきます。

B．「お話しタイム」の継続

園長が各クラスを訪れて絵本の読み聞かせをする「お話しタイム」を継続し、子どもの情操を豊かにし、聞く態度とともに聞く力の形成につなげています。

③ 自然体験

本園は自然環境に恵まれており、年間をとおして学園の農園での収穫体験ができます。管理してくださる方々の力を借り田植えをし、もち米を育て、収穫して餅つきを行い、食すという一連の体験は貴重です。野菜を植え育てるという活動も取り入れ、自分たちで育てた野菜の生長やそれを食することの喜びを味わいました。また、探索道で自然物収集やロープのぼり・芝すべりを楽しみました。

2022 年度も、子どもたちが園で育てた花を広島フラワーフェスティバルの会場に飾る「ピースフラワープロジェクト」に参加しました。花を育てることから優しい気持ちや平和な世界への願いにつなげてほしいと思っています。

④ 一貫校としての取り組み

A．大学生の卒論研究への協力

毎年、併設大学・短大の教育者を志す学生の卒論研究のための保護者アンケート、教員アンケート等への協力をしています。

B．大学の施設を利用した体験

大学教員の指導のもと、年長組全員の陶芸体験を実施しています。粘土をこね、皿などを作り、柄をつけ、焼き上がった作品を手にすることは、貴重な体験となっています。

また、毎年、年長組のお泊り保育の際に大学図書館で絵本を借りています。大学 9 号館にある天文台では、年長組親子全員対象に「親子で星を見る会」を実施しました。

さらに、短大の学生による「安田こども劇場」の発表を鑑賞し、子ども達の楽しい行事となっています。

C．安田小学校前校長による子育て講演会の開催

6 月に安田小学校前校長による、「小学校入学までに心がけておくこと」と題した「子

育て講演会」を開催し、約 55 名の参加がありました。「聞く力」を育むために「言葉を理解して自分で考えて行動すること」の大切さ、家庭の中での「3 つの声」（話し声・笑う声・歌う声）の大切さ、さらに子育ての中での「期待と希望」にも言及され、就学を前にした保護者も子育てを振り返りとともに、就学に向けた貴重な時間となりました。

⑤　在園児子育て支援について　　＊（　）は前年度

A．預かり保育の充実

保育時間前後の預かり保育として、早朝保育や延長保育を大学・短大の施設“Sophia”で継続しています。2022 年度の実施日が通常保育と長期休業中を合わせ 229 日（224 日）となり、延べ人数 8,050 名（8,051 名）と多くの利用がありました。

＜時間帯別内訳＞　　※人数は年間延べ数　　※（　）は一日平均

	2020 年度	2021 年度	2022 年度
早朝保育（7:45-）	2,005 名（ 7.6 名）	1,968 名（ 8.8 名）	2,000 名（10.7 名）
通常保育	6,091 名（26.7 名）	6,611 名（35.5 名）	6,524 名（34.9 名）
延長保育（17-19）	1,077 名（ 4.1 名）	1,284 名（ 5.7 名）	1,276 名（ 6.8 名）
長期休業中	1,438 名（36.8 名）	1,440 名（37.9 名）	1,526 名（36.3 名）

B．課外教室の充実

保育終了後の課外教室が 6 教室あり（英語・硬筆・絵画・サッカー運動遊び・ダンス・体操）選択肢も増え、子どもたちの楽しみと励みになり、自信につながっています。

⑥　未就園児子育て支援について　　＊（　）は前年度

2 歳児親子登園は今年度も、親子登園の実施日を 9 月まで実施し、入園を希望する方々の体験の機会となり、地域の子育て支援にも貢献しました。9 月に実施した新規親子登園では、1 回コースを 5 グループ行い、延べ 73 組（64 組）の参加がありました。親子登園参加によって本園を志願する方がみられます。

オープンスペースは、予約制のもとキッズルームを開放しました。0 歳から 2 歳前までの乳幼児親子の参加者があり、子育て相談も行いました。

行事名	対象	実施回数	参加状況＊（　）は前年度
休日園開放「幼稚園であそぼう」	2 歳児	2日間	延べ94組（117組）
園開放	1 歳～就園前	6回	298組（233組）
園庭開放	0 歳～就園前	5回	延べ221組（ 80組）
親子登園	2 歳	29 回	372組（159組）
オープンスペース	0 歳～2 歳前	9回	延べ84組（ 50組）

⑦　インスタグラムの起用

インスタグラム（Instagram）での園の情報発信を行いました。フォロワー数も少しずつ増え、多くの方へ情報を発信するツールが増えました。

⑧　施設・設備

保育室の床の修繕と、LED ライトを園全体に取付け、省エネルギー化と併せて、より明るく快適な保育室となりました。

⑨　園児の園バス置き去りを防ぐための園務支援システムによる安全管理の徹底と強化

他園で起きた、園バス置き去り事件を受け、2020年度より導入している「園務支援システム・バスキャッチ」の活用で、欠席・遅刻連絡、園バス利用、預かり保育等の園児管理を徹底・強化することにより、園児の安全管理の徹底を図りました。また、園バス乗務の際の園児の人数確認と降車確認の強化を図りました。

Ⅲ. 財務の概要

今年度の資金収支について、収入総額は、243億7,219万4千円、支出総額は254億5,122万6千円となり(収支とも繰越支払資金を除く)、前年比では、収入は資産売却収入の減少等により21億8,163万4千円減少し、支出は資産運用支出の減少等により26億1,166万円減少した。

事業活動収支は、事業活動収入計が117億2,097万4千円、事業活動支出計が100億4,062万6千円となり、基本金組入前当年度収支差額が16億8,034万8千円の収入超過となり、基本金組入後の当年度収支差額は△59億4,795万9千円となった。

貸借対照表の資産の部合計は、前期末より10億4,216万6千円増加し597億9,255万3千円となった。また基本金は、第1号・第2号の組入及び組戻により53億6,165万5千円増加し、599億5,099万6千円となった。

財務上の重要な指標である事業活動収支差額比率の実績は14.3%であった。同系統(薬学部他複数学部)の大学法人の全国平均値(日本私立学校振興・共済事業団の発行する「今日の私学財政」より)は近年4～5%程度の水準であり、それと比較すると、財務的に安定した経営状況であると評価できる。引き続き、教育研究環境の充実・向上に十分留意しつつ、強固な財務基盤を維持出来るよう努めて行く。

今年度の主な整備事業は次のとおりである。
安東キャンパス教育系仮想化基盤更改(4,400万円)
安東キャンパス単結晶X線構造解析装置(1,012万円)
安東キャンパス図書館屋上防水修繕工事(979万円)
安東キャンパス安田幼稚園安東園舎 LED化工事(469万円)
白島キャンパス再開発建設工事(小学校、講堂、渡り廊下、外構)(56億7,147万円)

今年度の寄付金収入71,772,675円の内訳は次のとおりである。

法人より	2 件	2,000,000 円
個人より	417 件	69,772,675 円

1.資金収支計算書の推移

(単位:千円)

収入の部	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	前年度増減
学生生徒等納付金収入	7,845,544	8,088,653	8,009,300	8,253,155	8,683,232	430,077
手数料収入	94,846	99,057	93,279	90,273	84,734	△ 5,539
寄付金収入	29,944	20,604	16,747	18,249	71,773	53,524
補助金収入	1,498,121	1,422,040	1,463,107	1,376,624	1,828,256	451,632
国庫補助金収入	837,028	779,721	814,260	749,210	1,169,883	420,673
地方公共団体補助金収入	660,693	642,319	648,847	624,714	655,873	31,159
学術研究振興資金収入	0	0	0	2,300	2,100	△ 200
若手・女性研究者奨励金収入	400	0	0	400	400	0
資産売却収入	6,075,538	12,945,115	14,190,441	13,140,644	10,609,765	△ 2,530,879
付随事業・収益事業収入	87,211	88,551	52,369	115,812	92,966	△ 22,846
受取利息・配当金収入	531,060	489,918	530,782	548,136	615,239	67,103
雑収入	263,115	241,454	212,532	265,357	262,997	△ 2,360
借入金等収入	2,000,000	0	0	0	0	0
前受金収入	1,289,604	1,209,186	1,293,718	1,269,517	1,168,126	△ 101,391
その他の収入	1,209,224	1,088,394	955,517	3,044,023	2,668,020	△ 376,003
資金収入調整勘定	△ 1,364,453	△ 1,653,329	△ 1,460,140	△ 1,567,962	△ 1,712,914	△ 144,952
小　計	19,559,754	24,039,643	25,357,652	26,553,828	24,372,194	△ 2,181,634
前年度繰越支払資金	4,055,763	5,336,544	5,280,170	8,007,607	6,498,549	△ 1,509,058
収入の部合計	23,615,517	29,376,187	30,637,822	34,561,435	30,870,743	△ 3,690,692

支出の部	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	前年度増減
人件費支出	4,675,722	4,731,179	4,807,897	5,062,535	5,047,655	△ 14,880
教育研究経費支出	1,729,290	1,726,531	2,040,462	1,851,400	2,855,940	1,004,540
管理経費支出	398,749	422,308	384,700	355,735	484,465	128,730
借入金等利息支出	0	22,115	21,625	20,250	18,249	△ 2,001
借入金等返済支出	150,000	150,000	150,000	400,070	399,990	△ 80
施設関係支出	2,241,022	2,648,613	464,796	2,943,130	5,925,054	2,981,924
設備関係支出	297,819	272,928	151,169	91,806	322,852	231,046
資産運用支出	8,779,720	14,103,080	14,650,384	17,468,053	10,194,066	△ 7,273,987
その他の支出	81,745	83,832	47,095	56,390	253,082	196,692
資金支出調整勘定	△ 75,094	△ 64,569	△ 87,913	△ 186,483	△ 50,127	136,356
小　計	18,278,973	24,096,017	22,630,215	28,062,886	25,451,226	△ 2,611,660
次年度繰越支払資金	5,336,544	5,280,170	8,007,607	6,498,549	5,419,517	△ 1,079,032
支出の部合計	23,615,517	29,376,187	30,637,822	34,561,435	30,870,743	△ 3,690,692

2.事業活動収支計算書の推移

（単位：千円）

科目			2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	前年度増減
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	7,845,544	8,088,653	8,009,300	8,253,155	8,683,232	430,077
		手数料	94,846	99,057	93,279	90,273	84,734	△ 5,539
		寄付金	29,944	20,604	16,747	18,049	71,773	53,724
		補助金	1,265,402	1,177,481	1,300,108	1,231,542	1,519,818	288,276
		国庫補助金	604,310	535,771	666,797	604,128	861,445	257,317
		地方公共団体補助金	660,692	641,710	633,311	624,714	655,873	31,159
		学術研究振興資金	0	0	0	2,300	2,100	△ 200
		若手・女性研究者奨励金	400	0	0	400	400	0
		付随事業収入	87,211	88,551	52,369	115,812	92,966	△ 22,846
		雑収入	265,242	288,495	255,520	279,270	269,566	△ 9,704
		教育活動収入計	9,588,189	9,762,841	9,727,323	9,988,101	10,722,089	733,988
	事業活動支出の部	人件費	4,722,252	4,767,451	4,819,069	5,033,122	5,099,059	65,937
		教育研究経費	2,926,639	2,909,017	3,296,367	3,032,206	4,171,825	1,139,619
		管理経費	446,550	471,318	427,886	395,256	529,792	134,536
		徴収不能額等	0	66	14	0	350	350
		教育活動支出計	8,095,441	8,147,852	8,543,336	8,460,584	9,801,026	1,340,442
		教育活動収支差額	1,492,748	1,614,989	1,183,987	1,527,517	921,063	△ 606,454
教育活動外収支	事業活動収入の部	受取利息・配当金	531,060	489,918	530,782	548,136	615,239	67,103
		その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0	0
		教育活動外収入計	531,060	489,918	530,782	548,136	615,239	67,103
	事業活動支出の部	借入金等利息	0	22,115	21,625	20,250	18,250	△ 2,000
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0	0
		教育活動外支出計	0	22,115	21,625	20,250	18,250	△ 2,000
		教育活動外収支差額	531,060	467,803	509,157	527,886	596,989	69,103
		経常収支差額	2,023,808	2,082,792	1,693,144	2,055,403	1,518,052	△ 537,351
特別収支	事業活動収入の部	資産売却差額	15,162	13,146	99,677	35,032	62,010	26,978
		その他の特別収入	238,338	250,120	167,583	148,117	321,636	173,519
		特別収入計	253,500	263,266	267,260	183,149	383,646	200,497
	事業活動支出の部	資産処分差額	223,055	1,170,968	135,082	56,354	221,350	164,996
		その他の特別支出	0	0	0	0	0	0
		特別支出計	223,055	1,170,968	135,082	56,354	221,350	164,996
		特別収支差額	30,445	△ 907,702	132,178	126,794	162,296	35,502
基本金組入前当年度収支差額			2,054,253	1,175,090	1,825,323	2,182,198	1,680,348	△ 501,850
基本金組入額合計			△ 1,689,622	△ 3,958,404	△ 182,973	△ 411,946	△ 7,628,307	△ 7,216,361
当年度収支差額			364,631	△ 2,783,314	1,642,349	1,770,252	△ 5,947,959	△ 7,718,211
前年度繰越収支差額			△ 4,192,780	△ 3,702,426	△ 6,485,740	△ 4,223,877	△ 2,324,521	1,899,356
基本金取崩額			125,723	0	619,513	129,104	2,266,653	2,137,549
翌年度繰越収支差額			△ 3,702,426	△ 6,485,740	△ 4,223,877	△ 2,324,521	△ 6,005,827	△ 3,681,306

（参考）							
事業活動収入計	10,372,749	10,516,025	10,525,365	10,719,386	11,720,974	1,001,588
事業活動支出計	8,318,496	9,340,935	8,700,042	8,537,188	10,040,626	1,503,438

3.貸借対照表の推移

(単位:千円)

資産の部 科　　目	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	前年度 増減
固定資産	46,098,655	49,390,517	48,567,763	48,028,505	52,740,138	4,711,633
有形固定資産	33,779,726	35,475,453	34,734,906	36,517,553	41,195,746	4,678,193
土地	8,978,732	8,978,732	8,986,872	9,158,839	9,682,917	524,078
建物	19,707,977	21,625,656	20,756,404	20,021,322	26,463,386	6,442,064
その他の有形固定資産	5,093,017	4,871,065	4,991,630	7,337,392	5,049,443	△ 2,287,949
特定資産	12,291,032	13,892,857	13,795,845	11,475,971	11,506,719	30,748
その他の固定資産	27,897	22,207	37,013	34,980	37,673	2,693
流動資産	8,060,346	5,714,801	8,289,985	10,721,881	7,052,415	△ 3,669,466
現金預金	5,336,544	5,280,170	8,007,608	6,498,550	5,419,517	△ 1,079,033
その他の流動資産	2,723,802	434,631	282,377	4,223,331	1,632,898	△ 2,590,433
資産の部合計	54,159,001	55,105,318	56,857,748	58,750,387	59,792,553	1,042,166
負債の部						
固定負債	5,466,298	5,305,528	4,873,730	4,430,414	4,075,259	△ 355,155
長期借入金	4,400,000	4,250,000	3,849,930	3,449,940	3,049,950	△ 399,990
退職給与引当金	1,066,298	1,055,528	1,023,800	980,474	1,025,309	44,835
流動負債	1,610,494	1,542,491	1,901,396	2,055,153	1,772,126	△ 283,027
短期借入金	150,000	150,000	400,070	399,990	399,990	0
前受金	1,289,605	1,209,186	1,293,718	1,269,517	1,168,126	△ 101,391
その他の流動負債	170,889	183,305	207,608	385,646	204,010	△ 181,636
負債の部合計	7,076,792	6,848,019	6,775,126	6,485,567	5,847,385	△ 638,182
純資産の部						
基本金の部						
第1号基本金	46,584,316	49,395,039	49,268,460	52,143,090	57,358,996	5,215,906
第2号基本金	3,670,319	4,800,000	4,478,039	1,854,251	2,000,000	145,749
第4号基本金	530,000	548,000	560,000	592,000	592,000	0
基本金の部合計	50,784,635	54,743,039	54,306,499	54,589,341	59,950,996	5,361,655
繰越収支差額の部						
翌年度繰越収支差額	△ 3,702,426	△ 6,485,740	△ 4,223,877	△ 2,324,521	△ 6,005,828	△ 3,681,307
純資産の部合計	47,082,209	48,257,299	50,082,622	52,264,820	53,945,168	1,680,348
負債及び純資産の部合計	54,159,001	55,105,318	56,857,748	58,750,387	59,792,553	1,042,166

4. 貸借対照表関係比率の推移

財務比率		算式(×100%)	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
1	純資産構成比率	純資産 / 総負債＋純資産	86.9%	87.6%	88.1%	89.0%	90.2%
2	基本金比率	基本金 / 基本金要組入額	96.7%	97.1%	97.4%	98.1%	98.9%
3	固定長期適合率	固定資産 / 純資産＋固定負債	87.7%	92.2%	88.4%	84.7%	90.9%
4	流動資産構成比率	流動資産 / 総負債＋純資産	14.9%	10.4%	14.6%	18.2%	11.8%
5	流動比率	流動資産 / 流動負債	500.5%	370.5%	436.0%	521.7%	398.0%
6	前受金保有率	現金預金 / 前受金	413.8%	436.7%	619.0%	511.9%	463.9%
7	負債比率	総負債 / 純資産	15.0%	14.2%	13.5%	12.4%	10.8%

5. 事業活動収支計算書関係比率の推移

財務比率		算式(×100%)	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
1	事業活動収支差額比率	基本金組入前当年度収支差額 / 事業活動収入	19.8%	11.2%	17.3%	20.4%	14.3%
2	学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金 / 経常収入	77.5%	78.9%	78.1%	78.3%	76.6%
3	補助金比率	補助金 / 事業活動収入	14.4%	13.5%	13.9%	11.5%	13.0%
4	人件費比率	人件費 / 経常収入	46.7%	46.5%	47.0%	47.8%	45.0%
5	教育研究経費比率	教育研究経費 / 経常収入	28.9%	28.4%	32.1%	28.8%	36.8%
6	基本金組入率	基本金組入額 / 事業活動収入	16.3%	37.6%	1.7%	3.8%	65.1%
7	人件費依存率	人件費 / 学生生徒等納付金	60.2%	58.9%	60.2%	61.0%	58.7%

6. 在学生数・教職員数の推移

区分		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
在学生数	(単位:名)					
	大学院	39	33	26	23	29
	大学	4,944	5,037	5,062	5,139	5,325
	短期大学	260	262	294	299	272
	高等学校	785	763	729	714	746
	中学校	577	572	554	510	503
	小学校	487	490	495	494	494
	幼稚園	197	210	208	210	210
	幼稚園安東園舎	205	206	210	207	208
	計	7,494	7,573	7,578	7,596	7,787
教職員数	(単位:名)					
	大学	624	616	596	602	593
	短期大学	36	38	29	32	29
	高等学校	73	74	79	86	91
	中学校	54	58	57	57	61
	小学校	45	43	46	50	46
	幼稚園	25	29	26	31	30
	幼稚園安東園舎	25	26	30	27	26
	その他	6	4	4	3	3
	計	888	888	867	888	879

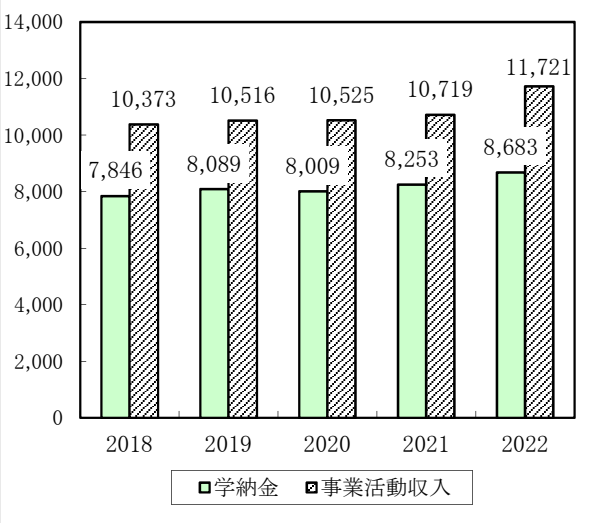
財　務　の　概　要

（５年間の財務　経年比較表）

（単位：百万円）

項　　目	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
①学生生徒等納付金	7,846	8,089	8,009	8,253	8,683
②事業活動収入	10,373	10,516	10,525	10,719	11,721
③経常収入	10,119	10,253	10,258	10,536	11,337
④基本金組入額	△ 1,690	△ 3,958	△ 183	△ 412	△ 7,628
⑤事業活動支出	8,318	9,341	8,700	8,537	10,041
⑥教育研究経費	2,927	2,909	3,296	3,032	4,172
⑦有形固定資産	33,780	35,475	34,735	36,518	41,196
⑧総　資　産	54,159	55,105	56,858	58,750	59,793

学生生徒等納付金及び事業活動収入の推移

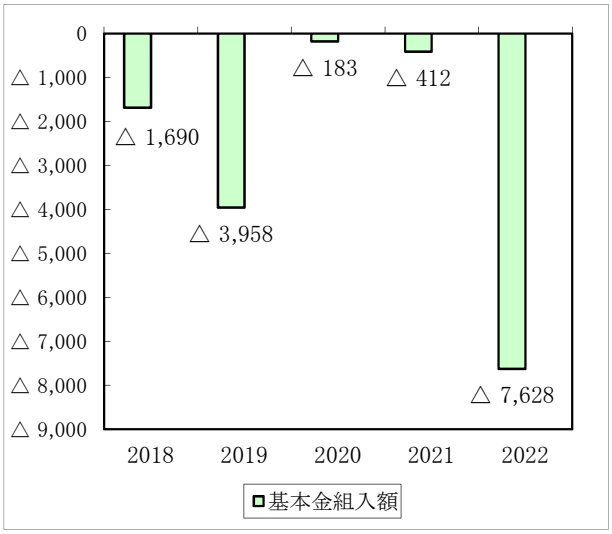


（%）

項　　目	2018	2019	2020	2021	2022
学生生徒等納付金比率	77.5	78.9	78.1	78.3	76.6

（学生生徒等納付金÷経常収入）

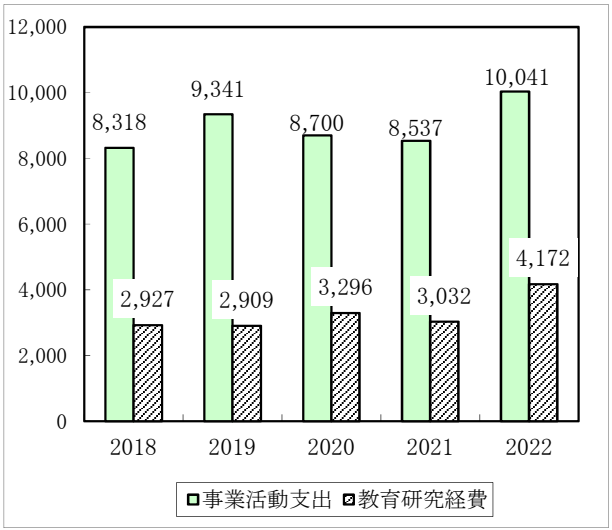
基本金組入額の推移



（%）

項　　目	2018	2019	2020	2021	2022
基本金組入率	16.3	37.6	1.7	3.8	65.1

事業活動支出及び教育研究経費の推移

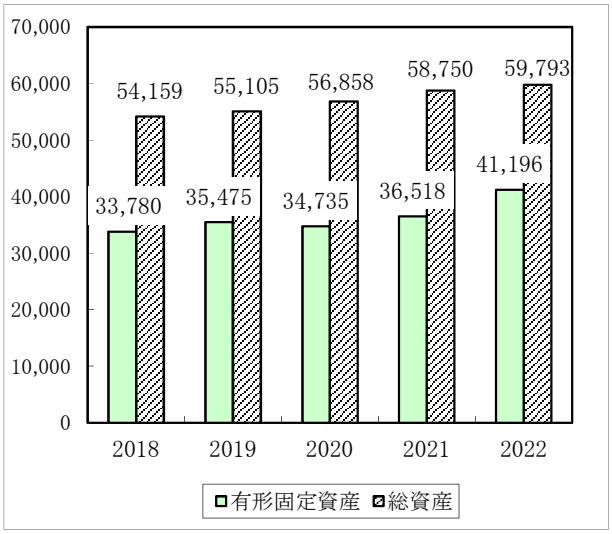


（%）

項　　目	2018	2019	2020	2021	2022
事業活動支出比率	80.2	88.8	82.7	79.6	85.7
教育研究経費比率	28.9	28.4	32.1	28.8	36.8

（教育研究経費÷経常収入）

総資産及び有形固定資産の推移



（%）

項　　目	2018	2019	2020	2021	2022
有形固定資産構成比率	62.4	64.4	61.1	62.2	68.9